

不退寺

この仏教寺院は 847 年、平安時代初期の廷臣であり、有名な歌人でもあった在原業平（825-880）によって創建された。不退寺については、業平ゆかりのお寺として、また業平自身が彫ったという木造の観音菩薩像の存在がよく知られている。寺院の三つの建造物である多宝塔、南大門、そして観音像などを安置する本堂は、鎌倉時代（1185-1333）に建立された。

806 年から 809 年まで在位し、突然の病によって退位を余儀なくされた平城天皇（773-824）が不退寺創建以前にこの地を所有していた。810 年に皇位再奪還に失敗した後、平城は奈良に隠棲し、私邸を建てて仏門に入り、宮廷の世界から身を引いた。彼の邸宅は平城の息子の阿保親王（792-842）、そして孫の在原業平へと受け継がれた。業平は平安時代を代表する歴史上の人物である。業平の和歌はよく知られており、今日でも引用され、また、その端麗な容姿と数々の恋愛沙汰でも知られている。

その歴史と彫像に加え、この寺は緑豊かな境内でも知られており、約 500 種の草花が植えられている。